

第 69 回接続料の算定等に関する研究会の議論を踏まえた
MVNO各社への追加質問及び回答

問 (IMS 接続を検討されている場合、) ビル&キープ導入によってビジネスへの影響、競争上の課題は想定されるか。

(佐藤構成員)

(日本通信回答)

- ビル&キープ導入の期待効果として利用者への還元が挙げられておりましたが、エンドユーザ料金の低廉化を図る最善の方法は市場において競争原理が働くことであり、特にモバイル音声通話市場に関しては、MVNO 事業者が IMS 接続によって低廉なエンドユーザ料金を提供できるかが重要となります。
- 現行では、第二種指定電気通信設備を設置する事業者が接続約款にて音声接続料を公表するなど、音声接続制度および接続料算定に関して透明性が確保されている状況となります。これにより、ホスト MNO との IMS 接続に際しても、ホスト MNO においては合理的な根拠に基づく接続料金の設定をいただくことが期待されます。
- 一方で、ビル&キープの導入により接続料金が廃止された場合、IMS 接続に向けて今後 MVNO とホスト MNO との間で接続料金が協議されるなか、音声接続制度および接続料算定に関する透明性が損なわれることが懸念されます。
- よって、音声通話に関するエンドユーザ料金の高止まりを改善させるためには、まず市場において競争ができる環境整備が先であり、ビル&キープの導入はその阻害要因とならないよう、導入実施時期を慎重に検討いただくことを要望いたします。

(オプテージ回答)

- IMS 接続においてビル&キープを導入した場合、ビジネスへの影響としては、相互接続先の他事業者との協議や事業者間精算等の事務的コストの軽減に寄与し得ることが想定されます。
- 一方で、基本的にはビル&キープについては、接続し合う事業者間のトラフィックが均衡し、互いの設備を同等に利用し合うことを背景に導入されるものであると理解しております。特に小規模事業者が事業者間のトラフィックのバランスが不均衡な状況でビル&キープを導入する場合、自社のお客さまからの利用料のみでは投資回収が困難となることも想定され、新規事業者の参入判断など、音声市場の競争環境に影響を及ぼす可能性があると考えます。

(I I J 回答)

